

# 令和5年度 北上市発掘調査概要

北上市立埋蔵文化財センター



竪穴住居跡のカマドと土器の使用イメージ(西から)



竪穴住居跡からの出土遺物

## 6. 羽場遺跡(和賀町竪川目) —平安時代の集落と墨書土器—

**調査期間** 10月23日～11月22日 **調査理由** 市道建設 **調査概要** 遺跡は和賀川北岸の段丘上に立地しており、東西700mにわたり広がっています。本遺跡の調査は今回が初めてになり、平安時代の竪穴住居跡2棟、時期不明の柱穴状土坑6基が見つかりました。平安時代の竪穴住居跡は、出土した土器や10世紀初頭に堆積した十和田a火山灰とみられる土層が確認されたことから、9世紀後半のものと考えられます。竪穴住居跡のうち1つは南壁にカマドが2つ構築されており、古い方のカマドの煙道からは、側面と底面に墨書された高台付皿が出土しました。底面の墨書は何らかの文様が描かれていますが、図像の種類を判断することは出来ませんでした。高台付皿は伏せて置かれた状態でみつかったことから、カマドの廃棄に伴う儀礼的な行為の可能性がります。



平安時代の竪穴住居跡(北西から)



同左 調査状況(北西から)



竪穴住居跡からの出土遺物



墨書土器(土師器・高台付皿)

# 令和5年度 北上市発掘調査概要

北上市立埋蔵文化財センター

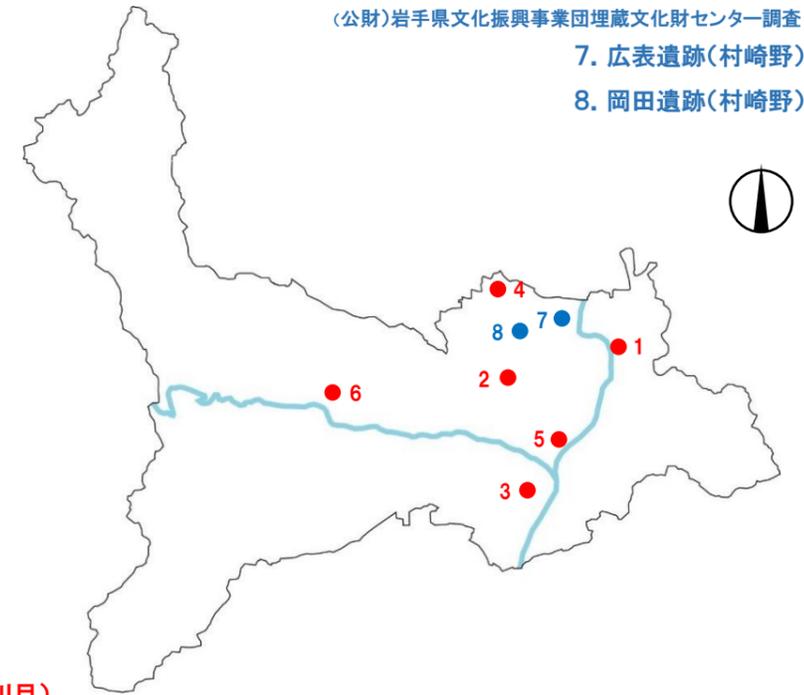
はじめに

北上市立埋蔵文化財センターでは令和5年度、市内の6地点で発掘調査を行いました。道路建設、住宅建設などの開発により消滅する埋蔵文化財を記録保存するための調査が多いですが、史跡を保存・活用するための内容確認調査も行っています。発掘調査の成果をご覧ください、地域の歴史に思いを巡らせて下されれば幸いです。

(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター調査

7. 広表遺跡(村崎野)

8. 岡田遺跡(村崎野)



北上市立埋蔵文化財センター調査

- 1. 八天遺跡(更木)
- 2. 藤沢遺跡(藤沢)
- 3. 滝ノ沢遺跡(大堤西)
- 4. 唐戸崎遺跡(飯豊)
- 5. 牡丹畑遺跡(黒沢尻)
- 6. 羽場遺跡(和賀町竪川目)

## 1. 八天遺跡(国指定史跡：更木) —縄文人の死と祈り—

**調査期間** 5月30日～12月14日 **調査理由** 内容確認 **調査概要** これまで9次にわたって調査が行われ、8回以上建て替えられた大形円形建物跡と、耳・鼻・口形土製品(重要文化財)などが発見され、国指定史跡となっています。今回の調査は整備基本計画を策定するにあたり、盛土遺構の分布・時期・大形円形建物跡との関係性及び台地上各所における表土の厚さを明らかにするために実施しました。

調査では、台地中央から縄文時代の炉跡2基、大型の柱穴状土坑4基、食糧貯蔵穴3基、落とし穴状土坑1基、土坑約200基のほか、平安時代の竪穴住居跡2棟を確認しました。また台地南部からは、縄文時代後期の盛土遺構(SM152)を確認しました。今回の調査結果から、台地の南北に造られた盛土遺構(SM151・152)に挟まれた空間に縄文時代の遺構が集中することなどが分かり、今後の史跡整備に向け様々な情報を得ることができました。



遺跡空撮：盛土遺構の推定分布範囲(東から)



SM152 盛土遺構 調査状況(北から)

北上市立埋蔵文化財センター

〒024-0043 岩手県北上市立花 14-62-2 TEL: 0197-65-0098



縄文時代後期前葉の柱穴状土坑(東から)



アスファルトが附着した土偶



SM152 から出土した石核・剥片類

## 2. 藤沢遺跡 (藤沢) —縄文時代の狩猟場—

**調査期間** 5月1日～6月26日 **調査理由** 駐車場造成 **調査概要** 遺跡の西端の台地縁辺部を調査しました。遺構は、縄文時代の土坑10基、近世の墓坑1基、近代の炭窯1基が見つかりました。縄文時代の土坑には丸形と溝状の2タイプがあり、多くは落とし穴と考えられます。両タイプが重なった位置から見つかり、前者の方が古いことが確認されました。一帯が複数の時期に狩猟の場として利用されたことが分かりました。



調査地点空撮 (南西から)



重なり合う2タイプの土坑 (南から)

## 3. 滝ノ沢遺跡 (大堤西) —縄文前期の集落—

**調査期間** 7月10日～9月20日 **調査理由** 住宅建設 **調査概要** 1970年代から多数の発掘調査が行われ、縄文時代前期末～中期、平安時代の集落跡であったことが分かっています。今回の調査では、縄文時代前期末～中期初頭の遺物包含層、土坑1基、炉跡1基、小柱穴群が見つかりました。周囲の地点では豊富に遺物を含む層の分布が確認されており、本調査地点も同様の層が分布していることが確認できました。



調査区全景(北東から)



縄文土器状況(北から)

## 4. 唐戸崎遺跡 (飯豊) —縄文時代の土器捨て場—

**調査期間** 9月17日～12月6日 **調査理由** 住宅建設 **調査概要** 遺跡は飯豊川左岸の段丘上に位置します。1990年代後半からこれまでに4回の調査が行われ、縄文時代中期と平安時代の集落であったことが分かっています。今回の調査では、縄文時代前期末～中期前葉の土器を多量に含む遺物包含層が見つかりました。出土遺物の総重量は500kg近くなります。また、住居の痕跡と考えられる柱穴や炉跡も見つかることから、多量の土や遺物を投棄しながら居住域としても利用したことが分かりました。過去の調査とあわせ考えると、遺跡西側の段丘縁辺部には縄文時代前期～中期の遺構や遺物が濃密に分布することが予想されます。



縄文土器出土状況(北西から)



調査区全景(南西から)



縄文土器出土状況(南から)

## 5. 牡丹畑遺跡 (黒沢尻) —奈良～平安時代の集落—

**調査期間** 6月19日～8月4日 **調査理由** 学校建設 **調査概要** 遺跡は北上川西岸の自然堤防上に立地します。これまで8回調査が行われており、縄文時代後・晩期と奈良～平安の集落跡であることが分かっています。特に、奈良～平安時代の竪穴住居跡については、これまでに52棟が見つかっており、大規模な集落であったことが明らかになっています。今回の調査でも、平安時代の竪穴住居跡1棟などが見つかりました。竪穴住居跡は、出土した土器から9世紀前～中葉のものと考えられます。床面からは柱穴以外に直径1mほどの土坑が8基見つかりました。これらは食糧貯蔵等に使われたと推定されます。ただし、居住空間を考慮すれば8基全てが一度に掘られていたわけではなく、常時1～2基の穴を使用し不要になると埋め戻したと考えられます。



遺跡空撮(南から)



平安時代の竪穴住居跡(西から)